

アメリカから

知久 篤

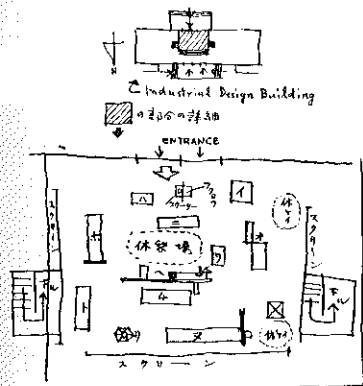
今、I. I. T. の Institute of Design がイニシアティブをとって、全米のインダストリアル・デザイン関係の学生の作品展を企画しており、近く世界各国を廻って歩くのだそうです。その準備のために、下記の参加大学の代表学生が、この春から I. I. T. に集まり企画をたて、その作品を集め、9月に入ってから昼夜兼行で作業を急ぎ、遂に9月末完成を見、月曜（9月30日）は新聞記者公開日でした。うまくとれるかどうか判りませんが、全作品のうち主なものはできるだけカメラに収めましたから、もしうまくできましたらお送りします。いずれパンフレットができるそうですので、入手次第お送りします。日本にも行きたいと思ってました。

展示会名称

“Industrial Design Education U.S.A.”

参加学校

1. SYRACUSE UNIVERSITY
2. RHODE ISLAND SCHOOL OF DESIGN
3. PHILADELPHIA MUSEUM SCHOOL OF ART
4. PRATT INSTITUTE
5. UNIVERSITY OF CALIFORNIA AT LOS ANGELES
6. INSTITUTE OF DESIGN, I. I. T.
7. UNIVERSITY OF ILLINOIS
8. UNIVERSITY OF BRIDGEPORT



1. Exhibit Documentation

(1/100 の会場全景のスケールモデル)

ロ。入口の飾り——（彫刻のシュールレアリスムのフクロウとスクーターのモデル 1/10）

ハ。Design Staff の紹介

ニ。Photographic Equipment——（写真9, モデル2）

ホ。Advanced Design Studies——（全部写真で展示、立体構成）

ヘ。白いカベに Exhibit の名称だけが書いてある

ト。Small Appliance ——（ミキサー、電気ドリル、ハンマー、電気ノコ等モデル 6点）

チ。Furniture——（写真20点、モケイ 1/10 3点）

リ。展示会の趣旨書

ス。Elementary Design Studies

ル。Education in Process

ヲ。Transportation——（写真 12, モデル 1）

ワ。Communication Devices

大要以上のような類別になっていて写真が主体で（大体4ツ切程度）、モデルもほとんど縮尺で輸送中の荷物の作り方までよく研究された展示台の上にならべられてあります。——10月2日

(IAI 在外研究員)

同展に関するニュース ID誌(米)より

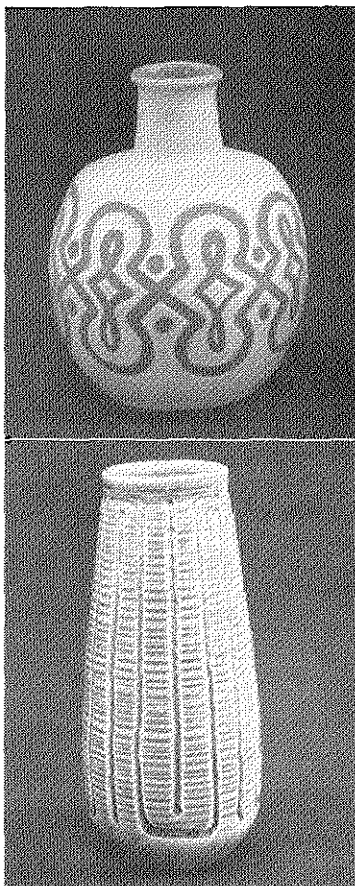
米国のインダストリアル・デザイン教育の学生作品展は、1958年、ヨーロッパおよびアジアへの巡回展示が計画されているが、それに先立ち、10月1日～14日、シカゴのイリノイ工科大学のクラウンホールで公開された。米国情報局の後援で、300平方フィートの展示会が、米国の八つの主なデザイン学校の学生達により、計画され、デザインされ、構成された。学生達が一夏をつぶしたこの展示会は I. I. T. のプロダクト・デザイン部長の Warren W. Fitzgerald の監督の下に構成された。

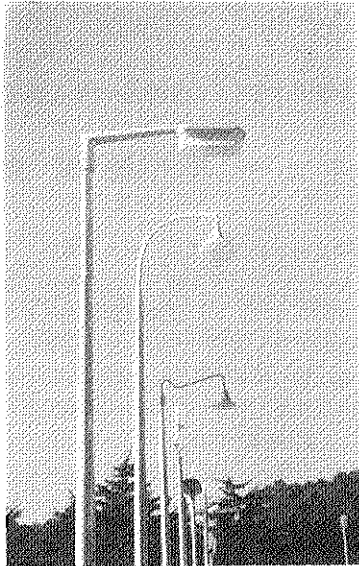
“Industrial Design Education, U.S.A.”——米国におけるインダストリアル・デザイン教育——と名づけられたこの展示会は、米国のデザイン教育の目的、方法、成果が視覚を通してどの程度まで説明し得るかを、示している。展示には、八つのデザイン学校より送られた夥しい作品の中から選ばれた、特に優れたものが含まれている。

ニュース、展覧会

河合卯之助作陶展 京洛の陶匠、河合卯之助の近作を展示した個展が三越で開かれた。鉢、花器、食器等の各種生活用品を制作したもので、従来の美術工芸には見られない、飾気のない素直な表現が作品に見られて好感がもてた。70余点の作品の中で、特に脱釉文様の花器が目についた。作り上げる技術、大胆で単純なボタン等になかなかの迫力があり、現代の生活と結びつく感覚があった。だが生活用品としての作品の価格には未だ問題を残している。その他の作品では赤絵のものに作者の円熟したうまさを感じた。最近とかくモダニズムを過剰に意識した工芸作品を見掛けることが多い折に、皮肉にも老作家の作品にむしろ近代的要素を感じる矛盾を見せられた展示会であった。(N) 三越本店、11月12～17日

河合卯之助作陶展より：（上）脱釉文花瓶、（下）影線文花瓶





新しい屋外灯展より

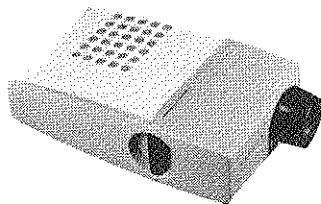
新しい屋外灯展示会 東京都、関東照明器具協同組合の主催、照明学会、東京電力の後援で屋外柱上灯の展示会が行われた。最近、一般に用いられはじめた水銀灯と、蛍光灯の技術向上と、一般の関心を高めるのが目的で、十数社から出品された50灯のうちには機能とともに形態とか昼間にみられる色彩にも気のくばられた、好感のもてるものもかなり見うけられた。このような展示会が今後も定期的に行われることが望ましい。11月1日～10日 日比谷公園

世界のアクセサリー展 毎日新聞社主催のアクセサリー展が上野松坂屋で開かれた。生活様式に強く結びついたアクセサリーは各時代の美意識を内包し、独自の美を表現してきたが、その文化史的な価値は、案外人々の間に知られていなかったようだ。今度の催しがこの盲点ともいわれる問題に焦点を合せて企画されたことは時宜を得ていた。会場には東西両文化の遺産として史的意義のある各種作品が美術館、関係者より出品され、古代より現代に至る参考品が極めて平易に理解されるよう展示してあり、雰囲気のないアクセサリー教室の性格を見せていた。会場の展示にも細かい神経が払われ、アクセサリーが求める楽しい雰囲気をただよわせていた。展示に当たったアクセサリー作家の創意とも思われる展示器具照明の方法等、となく雑然となりがちで、この種の展示会のディスプレイに一つの形式を見せていた。(N) 上野松坂屋、11月5日～10日

藤本能道個展 陶芸作家の創作発表の一形式として積極的な意味をもってきたオブジェ作品も作者の態度が固定化してしまうと精彩を失う結果になる危険がある。今度の藤本能道の個展でもこの悩みが未解決に残されてはいたようだ。しかし彼の作品としては確かにモダンアート出品以来造形力にいちじるしく巾の広さを見せてきた。展示作品の中でもロクロの作る空間のバリエーションを巧みに構成して動きのある形にまとめた技巧などは彼の領域だろう。陶工によるオブジェの落入りや

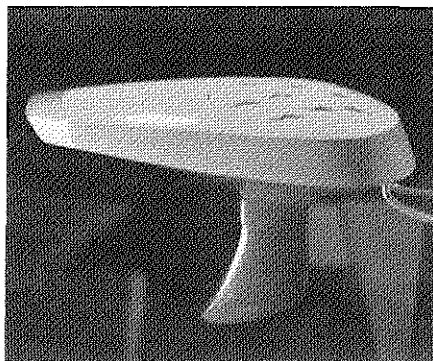
すい重くるしい雰囲気を克服し特奇な象徴性を生み出していた点は成功といえよう。今後、さらにオブジェの造形力を陶芸作家の創作にいかにつけていくかを自己への課題とすべきだろう。(N)村松西郎 11月12日～17日

ジョージ・ネルソン IAIの招聘デザイナー、ジョージ・ネルソンは11月6日、電機工業会館においてIAI、日本デザイン協会、日本デザイン協議会共催で講演会を開催、7日にはIAIにおける講演会を終了、直ちに西下、各

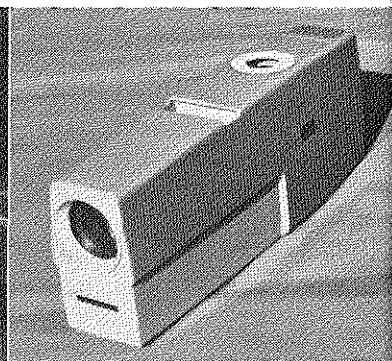


35m/m プロジェクター(4年佐藤昌弘)——芸大

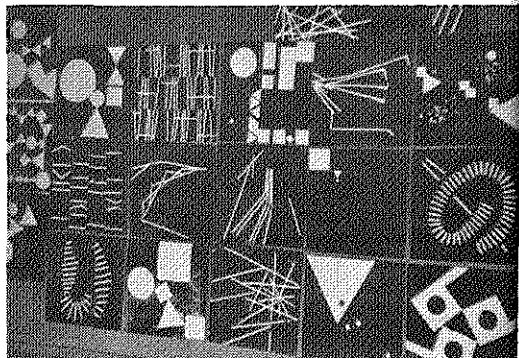
ヘッドライター(3年 宿輪哲也)



35 m/m プロジェクター(4年 井ノ口 諒)



1年デザイン科

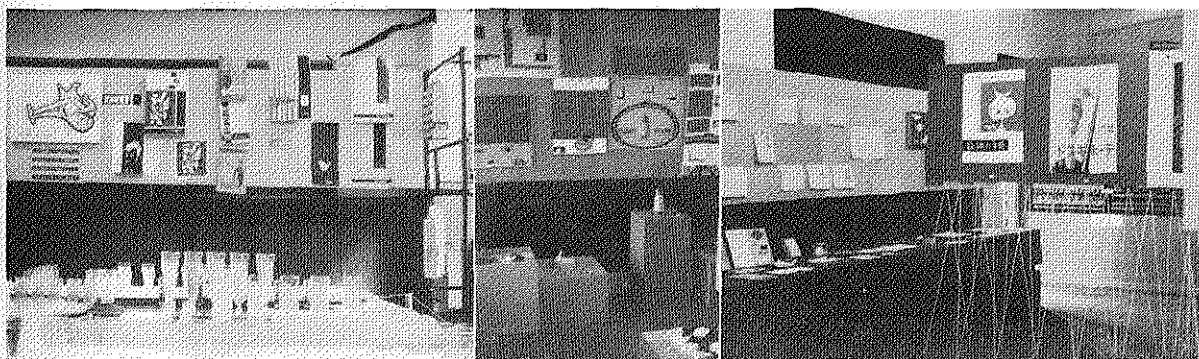


卒業生の賛助出品

造型作品展示

印刷图案作品

都立工芸高校



3 年 図 案 科

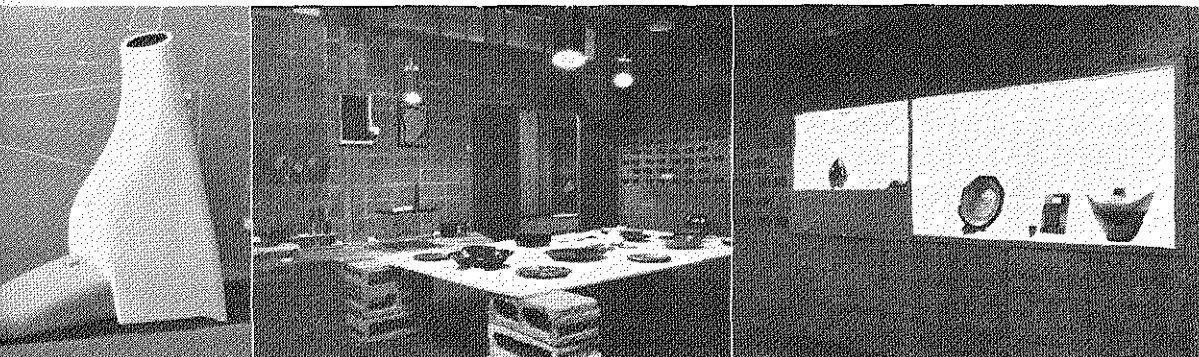
多摩美術大学



ヘヤードライヤー (3年 西沢 健)

工芸科のディスプレイ

東京芸術大学

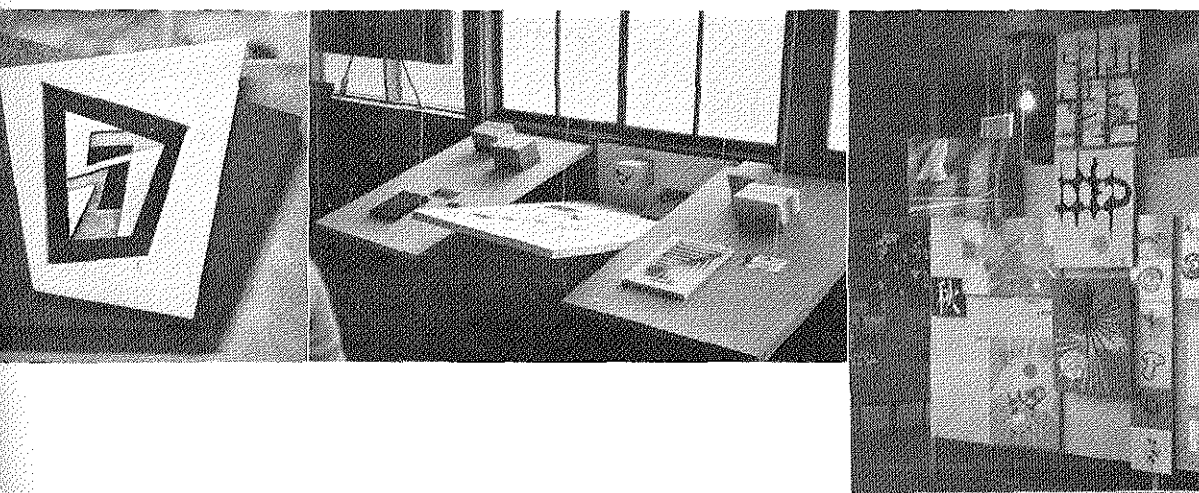


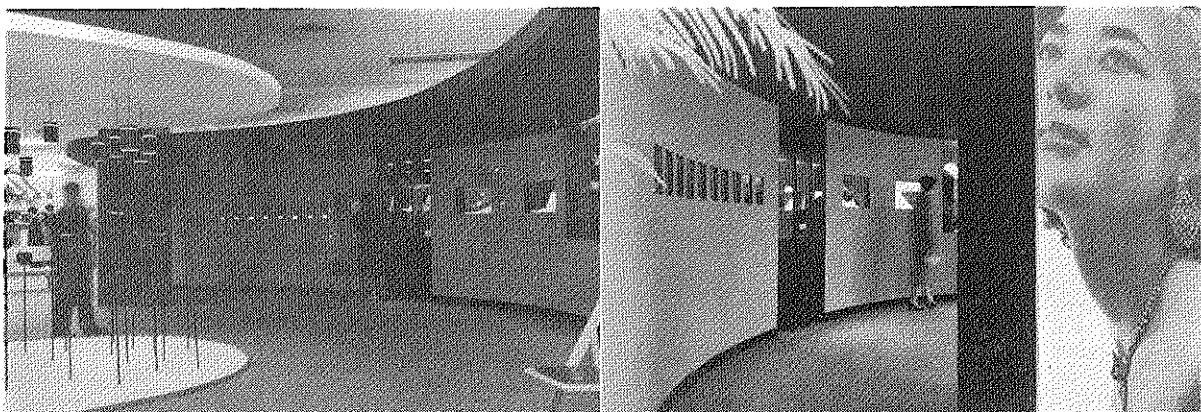
彫金レリーフによる壁面装飾(外山修久)

3 年デザイン科

1 年デザイン科

武蔵野美術短大





世界のアクセサリ展会場 ディスプレイはデザイン事務所

地を見学，その間大阪で講演会を行い帰京，16日，機械貿易会館において関係者一同を前に最終的報告会を終えて20日空路香港に向った。

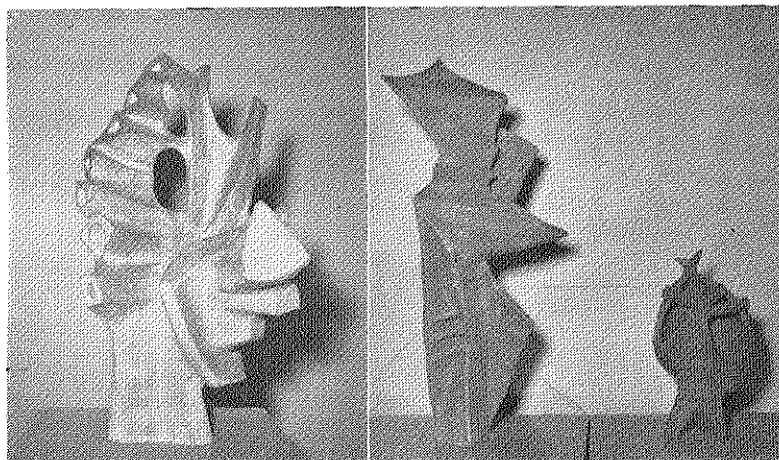
Hammarstrom 夫妻来日 米国の著名な美術学校 Cranbrook Academy of Art の教授として Textile Design の分野で目覚ましい活躍をしている Marianne Strengell Hammarstrom は夫人，Olva Hammarstrom と共に世界巡回のデザイン講演旅行の途次，東京に立寄った。両人は来る12月5日，国際文化会館において，日本国際デザイン協会主催によりスライド映写および講演会を行うことになった。

第10回輸出産業意匠図案入賞者決定

東京都は輸出商品の意匠改善により貿易の伸長を図る目的で先に募集した生活用品および染織品の意匠図案から入賞品の選衡を進めていたが，去る11月12日審査結果の発表があった。

・1等(5万円) 魔法瓶図案 柳 恒雄

盛本能道個展より：(左)「射る」赤土繻焼，(右)「対」土に鉄，マンガンを入れ黒鉄色の繻焼



- ・2等(2万円) 婦人服地図案 今井春雄，同じく婦人服地図案 東野信
- ・3等(5千円) ハンカチーフ図案 伊藤友雄，婦人服地図案 野田仁，スカーフ図案 中村浩太郎，ミルク・砂糖入の図案 佐々木祥子，味の素入れ図案 森谷照，新しいオルゴール 野口恒喜，婦人服地図案 居宿昌義，盛器図案 井上春光，婦人服地図案 鈴木美智子，ちり取付屑籠図案 内村喜之

第2回輸出繊維デザイン・コンクール

通産省および日本繊維意匠センターでは広く繊維デザインに対し一般の関心を深めるとともに輸出デザインの創作意欲を振起し常に世界的なデザインへの発展を喚起する意図で明春，第2回輸出繊維デザイン展を開催する計画をたて，同展へ展示するための作品を全国の関係各界から集めた応募作品から選定することとし，つぎの要項に基づいてデザインコンクールを行うことになった。

〔応募者の資格〕 個人に限り，その他制限なし

〔応募内容〕

第1部…アイディアを主体にしたデザイン

第2部…

(a) 一般服地捺染デザイン

(b) 特殊民族意匠捺染デザイン(サロン，ワックス，カンガー，サリーその他)

出品作品は出品者の創作になるもので未発表のものに限る。第2部の作品はかならずレシートを付す

〔応募点数〕 1人3点以内(第1部2部共)

〔出品方法〕

(a) 作品はかならず1点毎に1枚の台紙に貼付，台紙はケント紙二ツ切(約77×54 cm)または四ツ切(54×38.5 cm)

ただし特殊民族意匠捺染デザインは台紙の寸法に制限なし。台紙の表側には氏名など記入せぬこと

(b) 作品ごとに出品申込書に必要事項(※印)を明記し，作品の裏側左下部に貼付のこと。なお，作品譲渡希望者は備考欄にその旨記入のこと

(c) 送付作品の包装の表面には，かならず「応募作品」と朱書のこと

〔作品送附先〕 大阪市東区南本町2丁目37の1 財団法人日本繊維意匠センター

〔応募メ切〕 昭和33年1月25日

ただし郵送のものは同日の消印有効

〔作品審査〕

- ・応募作品はすべてセンター所有資料に基いて既発表のものに同一あるいは類似するかどうかの事前審査を行う
 - ・出品作品は次の項目について審査
- 第1部 着想，表現

第2部 創作性、市場性、加工性

・作品は入選の鑑別と入賞の審査に分け、鑑別、専門別審査、特殊意匠審査、総合審査の各委員会により入選入賞を決定。ただし同一人で同一アイデアと認められる作品が2点以上ある時は入賞は1点に止める

〔審査委員〕 通産省、学識経験者および業界代表者等 33名

〔賞金〕 金賞 各3万円……6点以内

銀賞 // 1万円……約12点

銅賞 // 5千円……約20点

なお出品申込書等出品募集についての詳細は、日本繊維デザインセンター宛に問合せのこと。

SIGNE D'OR ギリシャ文字の ϕ に似たシンボルをかかげて、第1回 Signe d'or (金壺) 工業デザイン競技会が、去る6月ブラッセルで行われた。これは、'ベネルックス' (ベルギー、オランダ、ルクセンブルクの3国) の製品のデザイン向上を目的としたもので、より広い市場での競争の援手のみでヨーロッパ中に送られる製品の一群である。1956年暮にベネルックスの製品向上を目的として創設された **Qualite Industrielle** が新たに設置したものである。入賞製品には、家具、精密機械、重工業製品などが含まれている。審査には国際審査の議長として米国のピーター・ミューラー・ムンクが当たった。

米国工業デザイン教育協会設立 最近、ニューヨーク州のシラキュース大学から寄せられた書翰によると、米国の工業デザイン教育の発展を使命とする **IDEA (Industrial Design Education Asso.)** が設立されたとのことである。この協会は米国で工業デザイン教育を実施している大学の相互の協力により組織的に教育水準を高めんと



Our Cover Artist

TANAKA Ikkō

今月の表紙作家、田中一光氏は1930年の生れ。京都市立美術専門学校卒。鐘紡意匠課を経て、54年産業経済新聞大阪本社に入社、企画物のグラフィック・デザインを担当。54年度毎日商業デザイン展で日宣美会員賞受賞。翌55年、プレスアルト誌で全作品の特集発表。57年 A.D.C. 銅賞受賞。現在、ライト・パブリシティのスタッフ。日宣美会員。(東京都大田区山王2の2153 常松方)

するものであり、すでに各大学の教授連の間で **IDEA** のグループを作り活動を続けてきた。先に **I.D. 誌** の1955年6月号にもその活動ぶりが紹介されているが、それ以後、フィラデルフィア美術館の **Joseph Carreiro** を議長とし、全米を西部組織委員会、中部組織委員会、東部組織委員会の3地区に分け、地区所在の大学の教授を中心に設立準備を進めてきたが、去る10月25~26日、シラキュース大学で開かれた会議で、正式に **IDEA** の設立をみたのである。

米国室内意匠センター設立 室内装飾および関連したデザインのための常設展示所が初めて米国に設立されることになった。同所の開館予定は来年のはじめで、優良商品の生産者、消費者の会合の場所も設備されるそうである。装飾部門に制限をとり、主としてデザイナー、デコレーター、建築家等にもみせるように仕組まれているこのセンターは、英国の **Design Centre**、およびデンマークのコペンハーゲンに在る **Den-Permanente** と競うことを目標とし、大衆が **Good Design**

を発見するのに便宜なよう諸々の情報を散布することも考えている。センターはニューヨークの53番街から54番街にかかる地域に位置し、デコレーターの市場としてニューヨークの室内装飾流行の中心の役割を果たす予定である。同所の計画および実行は、専属のデザイン・コンサルタント、**Tom Lee** によってなされたもので、床の総面積は4万平方フィートで2階に分れ、400人の展示出品者の個人展示ができる広さを持っている。同所に展示出品する者のレベルは評議会が決定することになっている。センターの目的は家具、装飾品、照明器具、織物、敷物、壁掛、その他の基本材料を消費者、および専門家(デザイナー)に自由にそして便利に見られる機会を与えるばかりでなく、それ等についての説明資料等の情報をも与えるために設立されたものである。この情報に当る所員は一般からの問合せも扱い、またフィルム、講演、特別のパノラマショー等といった教育的な計画も取扱うそうである。センターの会長 **Norman Ginsburg** は展示出品者の啓蒙援助をも含めることを約束している。

SIGNE D'OR : (左) シンボル、(中) 製図台——オランダ、(右) 折畳みアルミニウム椅子——ベルギー

